

2013年1月 SCUを開設しました

⚠ 24時間 365日 当直体制！脳卒中センタースタッフにつながります ⚠

脳卒中ホットライン【080-4613-6238】 脳卒中メール【nouge1@shinkohp.or.jp】

はじめに

2011年の厚生省人口動態統計月報年計では脳血管障害による死亡数は12万3784人で、わが国の死因の第4位でした。脳血管障害は1970年代までは死因の第1位でしたが、高血圧治療の普及により致死的な重症脳出血が減少した結果、近年は脳血管障害の死者数の約4分の3が脳梗塞となっています。

現在脳卒中患者数は約170万人ですが高齢化に伴い2020年には300万人に達すると予測されています。脳血管障害は死因としては減少していますが、運動麻痺や高次脳機能障害などの後遺症が残るため、介護の原因疾患では第1位、寝たきりを含む重い介護要因の約4割を占め、さらに長期入院が必要です。脳卒中に費やされる医療費用は年間1.9兆円で悪性腫瘍の1.76兆円、心疾患の6600億円を抜いてトップです。

このように脳卒中は高齢化が進むわが国の医療費高騰の原因

因としても、医学的・社会的にきわめて重要な疾患と考えられます。

神鋼病院の新しい脳卒中センター

2012年4月より、新しい神鋼病院脳外科の部長として上野 泰が赴任いたしました。これからの神鋼病院脳神経外科は、神戸市立医療センター中央市民病院脳外科・脳卒中チームと臨床や研究等の面で協力・連携し、脳卒中の脳血管内手術を診療の礎に添え、治療チームが相互に乗り入れ治療方針や診療データベースを一本化します。

我々が脳卒中診療の礎と考えております「血管内治療」とは、従来開頭手術が主流であった脳血管病変に対し、血管の内側からカテーテルを用いて治療する方法で、患者さんに優しく、低侵襲で、テクノロジーの進歩と相まって、今後ますます発展が予想されている分野です。従来の外科治療と血管内治療をバランスよく組み合わせ新しい治療の形態を築いていきます。

2012年9月からは最新式のフラットパネル式バイプレーン血管撮影装置「Allura Xper FD20/20」（フリリップス社製）が導入され、急性期の脳梗塞・脳動脈瘤・脳動静脈奇形などの血管内治療で活躍しています。実際の診療の際は血管内治療の我が国のパイオニアである神戸市立医療センター中央市民病院 脳卒中センター長 坂井信幸先生が直接来院し、その協力のもと当院スタッフと治療を行っております。最先端のテクノロジーを用いた最高の治療を提供できる体制を整えております。



脳神経外科 部長 上野 泰
Yasushi Ueno

平成4年京都大学卒業。京都大学非常勤講師。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医、Doctor of doctors ネットワーク優秀専門医等の資格をもつ。

Shinko Hospital

Medical News

Information

Information 1

新入職医師のご紹介

- ・SCUを開設しました
- ・開業医探訪「土田クリニック」
- ・Information
 - ・新入職医師のご紹介
 - ・開業医の先生へのお祝い
 - ・講演会のご案内

Information 2

がん地域連携パスへのご参加のお願い

平成23年6月に兵庫県指定がん診療連携拠点病院の指定を受け、質の高いがん医療を提供できるよう、診療機能の充実と体制作りを目指しております。がん診療の連携についてご理解・ご協力と、がん地域連携パスへのご参加をよろしくお申し込み申し上げます。

*がん地域連携パス対象疾患：肺がん・胃がん・大腸がん・肝がん・乳がん

Information 3

講演会のご案内 ※詳細につきましてはホームページをご覧ください

東神戸 総合内科講演会

- 日 時：平成25年2月15日（金）19時00分～20時30分
- 場 所：呼吸器センター・管理棟 5階 大会議室（神戸市中央区脇浜町1-4-47 TEL(078)261-6739）
- ミニレクチャー：『楽しく海外旅行に行く前に・・・世界の感染症とその対策』
座長：神鋼病院副院長 鈴木 雄一郎
講師：日本赤十字社 和歌山医療センター 感染症科 部長 大津 聡子 先生
- その他：日医生涯教育講座認定1.5単位取得予定、軽食をご用意しております。

オーダーメイド医療研究会 講演会

- 日 時：平成25年2月21日（木）18時30分～19時30分
- 場 所：呼吸器センター・管理棟 5階 大会議室（神戸市中央区脇浜町1-4-47 TEL(078)261-6739）
- ミニレクチャー：『個人個人で異なる膵癌の外科治療』
講師：神鋼病院 副院長・外科主任部長 東山 洋
- その他：日本医師会生涯教育講座1単位申請しております

医療法人社団 神鋼会 神鋼病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL：078-261-6711（代表）
FAX：078-261-6726
URL：http://www.shinkohp.or.jp/
発行責任者：病院長 山本 正之
編集責任者：神鋼病院広報委員長 山神 和彦

脳卒中センターの発足、 脳卒中集中治療室(SCU)の設置

2013年1月より、4階東病棟に待望の脳卒中集中治療室(stroke care unit: SCU)が完成しました。現在脳卒中センター22床(うち集中治療室: SCU 8床、高度治療室: HCU 6床)が稼働しております。ポータブルエコー、経頭蓋ドップラー、32チャンネル脳波モニター、NIRS末梢神経刺激装置、血液凝集能測定装置 Verity Now はじめ最先端の治療装置を整えました。

脳外科スタッフ6名と脳卒中治療経験のある神経内科医スタッフ2名の合計8名でチームを組み、本格的な脳卒中センターがスタートしました。春からはさらに3名のスタッフ・レジデントが加わり、同時に脳卒中当直室を完備し、現在24時間・365日当直体制で急性期の脳卒中治療にあたっております。

脳卒中ホットライン、脳卒中メールを設置し、24時間当直体制で脳卒中センタースタッフに繋がるようにしております。

脳卒中集中治療室(SCU)の意味

SCU、HCUの9床は専任ナースも増員し、最新のモニター機器も完備した病床となっております。毎朝8時から脳神経外科・脳卒中内科医によるフィルムカンファレンス、毎週月曜日・木曜日は総回診を行い、入院・外来を含め全症例の治療経過・治療方針・治療戦略の確認を繰り返し行っております。さらに毎週月曜日から午後5時から看護師・理学療法士と合同でリハビリテーション

カンファレンス、水曜日から午後5時半からは医師・レジデントが集まりアカデミックカンファレンスを開催しております。

リハビリテーションカンファレンスでは協動的な多職種によるリハビリテーションにおいて介護師の定期的な関与・教育と訓練の標準計画などを目標に、きめ細かいミーティングを行っております。

救急受け入れ体制として脳外科医・脳卒中内科医8名で脳卒



■ 坂井信幸先生と脳動脈瘤コイル塞栓術

中チームを組み合わせ、24時間・365日脳卒中の専門医が当直しています。救急隊・かかりつけ医・近隣の病院からの連絡を専用の直通電話で受け取り、メールを使つた画像のやり取りも可能となりました。従来のICUも利用し、脳卒中に関しては救急車が出来るだけストップしない体制を作っております。脳卒中が疑われれば、ホットラインに連絡し、救急車でいち早く病院に搬送して下さい。

脳卒中集中治療室(SCU)は、心疾患の Coronary Care Unit(CU)と同じ意味合いで用いられることが多く、通常、脳卒中急性期の病態が不安定な時期に高度な集中治療を行う病棟を意味します。医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー等の多職種で構成された脳卒中専門の総合医療チーム

急性期脳卒中・脳梗塞の最前線基地に

脳卒中を減少させるためには、まずは予防、つまり高血圧や脂質異常症など生活習慣病の管理、および心房細動などの抗凝固療法が重要です。しかし、万が一脳梗塞を発生した場合でも、最新の急性期治療法の進歩により、少しでも早く治療を受ければ、救命や後遺症の低減が得られるようになりつつあります。

脳梗塞急性期治療として高い

急性期脳梗塞に対する血管内治療の選択肢

内頸動脈や中大脳動脈など、主幹部の脳動脈が急性閉塞したことによる脳梗塞は、範囲も広く、二次的に広範な脳浮腫・出血性梗塞を来すことから、発症早期に閉塞血管の再開通が得られないと生命予後や機能予後が極めて不良となります。そこで、主幹脳動脈閉塞による発症8時間以内の急性期脳梗塞症例において、tPA静注療法が行えない例や、投与後も症状の改善が認められない例に、カテーテルを用いた血管内治療によって血流再開を得るための新たな治療機器(デ

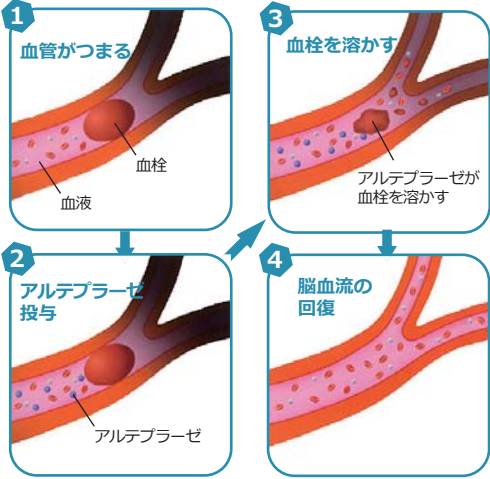
バイス)が、今日次々と開発されました。現在用いられている最新の血栓回収機器である Merci®(リトリーバルシステム)(Concentric Medical 社製)、Penumbra システム®(Penumbra 社製)は血流再開通が65%と良好な血流再開通率が得られ、神鋼病院でも既に多くの症例で実施しています。血流再開通治療後の90日後の生活自立度の割合は、再開通が得られた例で48%、得られなかった例でわずか5%で閉塞血管を「再開通出来るか出来ないか」が最も重要な事が証明されました。

新治療の恩恵を一人でも多くの患者が受けられるように

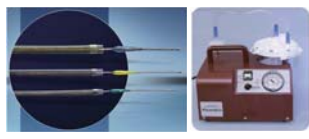
急性期脳梗塞に対する治療法は、近年めざましい進歩を続けています。一方で、より早く治療を開始するほど、良好な機能予後を得られる可能性が高まる事が示唆されており、これらの治療の恩恵を一人でも多くの脳梗塞患者が受けるためには、一般市民への脳卒中の啓発や救急隊と病院との連携、さらには

医療機関同士の連携を進め、1分でも早く脳卒中センターを有した専門医療機関を受診できる医療体制を構築することが極めて重要です。

脳血管内治療デバイスの進歩も日進月歩で、神鋼病院を受診していただいた患者さんに常に最新の機器を提供できるよう、日々努力していきます。



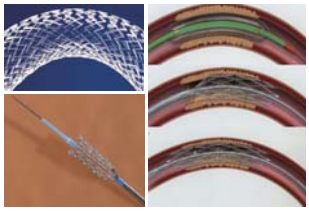
■ 急性期脳梗塞 tPA 静注療法



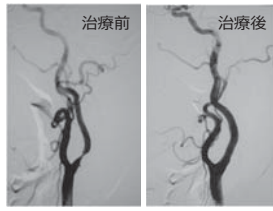
■ penumbra 血栓吸引カテーテル装置



■ Merci 血栓回収カテーテル



■ 頸動脈ステント



■ 頸動脈ステント留置術



神鋼病院では2012年4月よりスタッフが増員され、脳神経外科と脳卒中内科が協力して脳卒中センターが発足しました。常に最新の機器・最先端の治療法を取り入れ地域の脳卒中治療

最新の機器・最先端の治療で 地域に貢献できる脳卒中センターを目指して

今後とも脳動脈瘤・クモ膜下出血の治療においても最先端の治療を、安全・確実に皆様にお届けできるよう頑張つてまいります。

クモ膜下出血が疑われたらいつでも脳卒中ホットライン、脳卒中メールまでご連絡ください。24時間当直体制で脳卒中センタースタッフが繋がるようになっております。また画像の診断もメールあるいはライトメールを用いていつでもご相談いただければ幸いです。

特に我々が脳卒中治療の礎と考えている血管内治療に際しては、坂井信幸先生が直接当院に赴き当院スタッフと治療を行っています。治療方針や診療データベースも一本化し、画像データのネットでのやり取りにより瞬時に診断・治療方針を検討します。

また、定期的に臨床カンファレンスを主催し、臨床治験段階の最先端の機器を用いた治療では、当院からスタッフが神戸市立医療センター中央市民病院に赴き、治療に参加しております。今後とも最高の治療を提供できる体制を整えていきます。どうぞよろしく願いたします。

脳動脈瘤コイル塞栓術の最前線基地に

脳卒中の中でもう一つ重要な疾患がクモ膜下出血(SAH)です。クモ膜下出血は①突然の激しい頭痛、②嘔気・嘔吐で発症する病気で、脳卒中の救急疾患の中で最も重要かつ遭遇する可能性の高い疾患の一つです。軽症例では麻痺や脳神経症状などの局所神経症状がなく意識も清明ですが、重症例では突然の昏睡、呼吸停止や心停止となることあります。

原因は殆どの場合、脳の動脈の分岐部にできた血管の瘤(脳動脈瘤)が破裂することによって生じます。破裂すると30%程度の患者さんが死亡する大変重篤な病気です。また発症後24時間をピークに2週間後までに高率に再出血するため、急性期の再出血予防が急務です。

治療法には開頭クリッピング術と、コイル塞栓術があります。脳動脈瘤の場所や大きさ、状態を加味し治療法を選択しますが、最近特に進歩してきているのがコイル塞栓術です。マイクロカテーテルを用いて脳動脈瘤内にプラチナ製のコイルをバックすることにより再出血を予防する治

療法で、1992年 Guglielmi氏 が初めて行つて以来、急速に進歩してきました。近年では様々は素材・形状のコイルが開発され、複雑な形の脳動脈瘤の治療も可能となりました。2002年、クモ膜下出血に対する開頭クリッピング術とコイル塞栓術の成績を比較したISAAT研究が発表され、コイル塞栓術は優位に成績が良好という結果が出ました。以降、欧米ではコイル塞栓術が圧倒的に選択されています。当院でも可能な限りコイル塞栓術で治療を行っています。

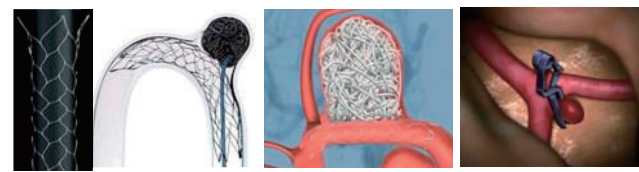
クモ膜下出血に対する集学的医療の意味でもSCUの持つ意義は非常に大きいと考えられます。

最近脳動脈瘤用の血管内ステント(商品名:Enterprise)が開発され、注目を浴びています。あらかじめ正常血管内にステント留置することにより、瘤内のコイルの逸脱を防ぎます。こ

れまでコイル塞栓術に不向きな形とされたクビレのないものや、治療困難であった脳動脈瘤のコイル塞栓術が可能となりました。本邦でも2010年7月より一般の病院でも使用が可能となりましたが、高い治療技術水準と周術期の厳重な管理能力が必要であるため、一定数以上の動脈瘤コイル塞栓術の治療経験がある医師が講習と実地監査を受けて使用します。当院では脳神経外科の蔵本要一医長がその資格を認定されており、既に多くの症例でEnterpriseを使用しているコイル塞栓術を行っております。



■ コイルで瘤内をバックし止血する



■ Codman enterprise コイルが完全に瘤をバックし、正常血管は確保されています ■ 開頭クリッピング術



今回は、阪神青木駅のすぐそば、アットホームな雰囲気「土田クリニック」をご紹介します。

泌尿器科・内科・循環器科

土田クリニック 【ちだクリニック】



土田クリニック

- 神戸市東灘区北青木3丁目8-31
- TEL : 078-441-6610
- 診療科 : 泌尿器科・内科・循環器科
- 休診日 : 木曜・日曜・祝日・土曜午後
- 診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	○	○	×	○	○
16:30~19:00	○	○	○	×	○	×

■ 診療を開始されてどれくらいになりますか？

平成6年6月、泌尿器科(均先生)・内科(富美子先生)で診療を開始しました。ところがその半年後、診療もようやく落ち着いてきた矢先の平成7年1月、阪神大震災に見舞われてしまいました。青木地区は周辺の火災や高速道路の倒壊等大きな被害を受けましたが、患者さんにも支えられ、この地で2人で診療を続けることができました。

■ どのような患者さんが来院されますか？

当院の周辺は、震災以降に移り住まれた方々がおられる一方で、元々地元の方も多く住んでおられます。高齢の患者さんが多く来院されますが、そのお子さんやお孫さんが来院されるなど親子3世代で通院される方が多くおられるのも特徴です。

■ 診療にあたり心掛けていることは何ですか？

患者さんのお話を聴くということを大切にしています。地域医療を重視していくなかで、患者さんの最も身近な存在である「家庭医」として、食事や生活に関することなど、病気だけではなく「人間を診る」総合診療に努めています。

■ ひとこと

患者さんとの一期一会を大切に、日々勉強を重ねながら地域医療に貢献できればと考えています。

